

関市まちづくり市民会議

まちづくりカレッジ

実施報告書

関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまり、延べ 72 件の提案が誕生しました。10 年続けてきた市民会議は、第 10 期を以って閉幕し、令和 5 年度より新しく生まれ変わった市民会議がスタートしました。

これまでの市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することでした。そのため、参加者の方々には、約 10 か月間にわたって、市民会議に関わってもらう必要がありました。

新しい市民会議では「もっと気軽にまちづくりに参加」できるよう、市民会議に関わる期間 3 か月程度に短縮し、複数のテーマを設け、全 3 回開催する運びとなりました。

さらに、市民会議初の取り組みとなる「無作為抽出」を取り入れ、これまで市民会議を知らなかったの方々にも参加いただきました。

名称	開催期間	内容
まちづくりミーティング	令和 5 年 6 月中旬～ 8 月中旬	無作為抽出された市民の方が集まり、日頃から考えている課題について話し合います。
自分ごと化会議	令和 5 年 9 月中旬～ 12 月中旬	第 5 次総合計画後期基本計画における課題の中からテーマを取り上げ、そのテーマに関係する市民を募集します。
まちづくりカレッジ	令和 5 年 12 月中旬～ 令和 6 年 2 月中旬	関市のまちづくりに関心をもってもらえるよう、講座形式で関市の政策や計画について学ぶ機会をつくります。

〈まちづくり市民会議の各期の提案数と採択数〉

	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期
提案数と 採択数	10 件 (採択 3 件)	12 件 (採択 2 件)	9 件 (採択 2 件)	6 件 (採択 4 件)	6 件 (採択 5 件)
	第 6 期	第 7 期	第 8 期	第 9 期	第 10 期
提案数と 採択数	6 件 (採択 6 件)	5 件 (採択 3 件)	7 件 (採択 7 件)	6 件 (採択 5 件)	5 件 (採択 2 件)

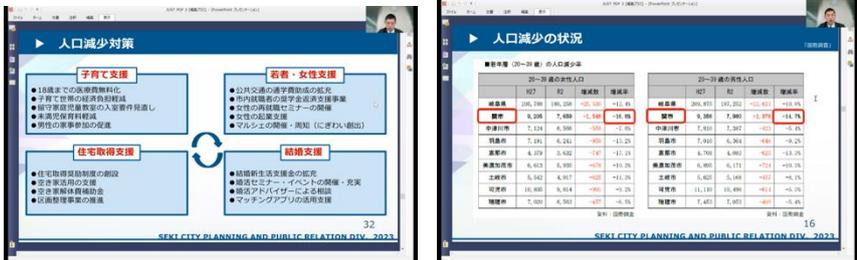
まちづくりカレッジ

実施報告書1

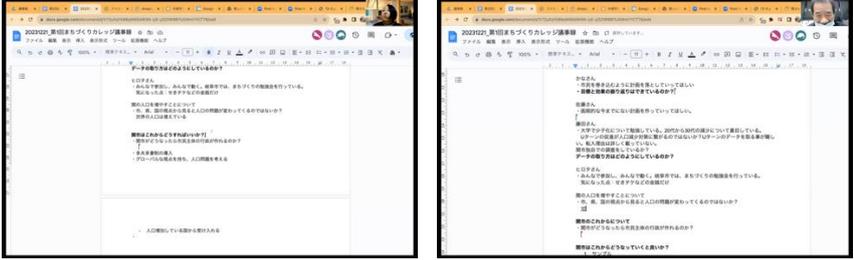
1.開催概要

名称	まちづくりカレッジ(第1回)
日時	2023年12月21日(木) 18:00~19:30
開催場所	zoom
参加者	6名(1名途中退出)

2.開催内容

工夫したこと	<p>今回が初めての顔合わせだったため、参加者同士のコミュニケーションが円滑に図れるように、自己紹介の時間をたっぷりとした。</p>
① 講座	<p>最初に市民協働課のから企画主旨の説明があった。続いて、企画広報課から第5次総合計画について説明があった。</p> <p>企画広報課の担当者(講師)の自己紹介から始まり、総合計画の概要説明と関市の課題、それに向けて取り組んでいること、後期の基本計画について等をデータや写真を多く用いながら発表して頂いた。</p>
	
	発表の様子
② 自己紹介	<p>講座の後は、自己紹介を行なった。「はじめまして」の方がいたので、一人一言は発言していただくよう話しやすい場づくりを心がけた。</p> <p>自己紹介では「呼ばれたい名前、所属、住まい、意気込み」をそれぞれ話した。</p>
③ 質疑応答	<p>自己紹介の後は、企画広報課の発表を聞いて「感じた感想」と「疑問点」を共有する時間を設けた。疑問点では「市民主体のまちづくりはどれだけ行えているのか?」や「目標と効果の振り返りはどれだけできているのか?」「どのようにデータを取ったのか?」などの質問が出た。</p> <p>関市がどうなっていったら市民主体のまちが作れるのかについて興</p>

味関心がある参加者が多い印象であった。



グループディスカッションの様子

④ 関市のこれからを話す時間

「関市のこれから」について話す時間では、多夫多妻制の導入や人口問題には移民を受け入れるなど幅広い意見が出てきた。内容は、別添の議事録に記載した通りである。

3.総括

総合計画について理解を深めることができた。今回、まちづくりに関心を持っている方から、これからまちづくりを勉強したいという大学生まで、様々な方々が参加する会となった。

参加者の方々の想いや視点が幅広く、議論がまとまらないところがあり、ファシリテーションに苦労した。しかしながら、「市民協働のまちづくり」に参加者の方々が興味を持っているということが分かったので、その点を中心に次回は議論を進めていきたい。

実施報告書2

1.開催概要

名称	まちづくりカレッジ(第2回)
日時	2024年1月18日(木) 18:00~19:30
開催場所	オンライン(Zoom)
参加者	6名

2.開催内容

工夫したこと	今回は、参加者同士が活発に対話することを意図して、ブレイクアウトルームに分かれ3人2グループでの少人数での対話を行った。
⑤ 導入	最初に、市民協働課から趣旨説明として、まちづくりカレッジのゴール(関市が良くなる具体的なアイデアを提示してもらう)、前回の振り返りを行った。
⑥ 講座	市民協働課の趣旨説明の後、市民協働課の担当者(講師)から自治基本条例について20分間の説明を行った。自治基本条例制定に至った背景や自治基本条例の内容について説明があった。  趣旨説明  自治基本条例についての発表の様子
⑦ 感想・疑問点のシェア	講座の後は、感想・疑問点のシェアの時間を15分取った。この時間は、なるべく少人数で密度の濃い時間を過ごしてもらうことを意図して、3人1組のブレイクアウトルームを2つ作った。 ブレイクアウトルームでは、市民協働課の自治基本条例の説明を聞いた感想や疑問点について、チームで10分間話し合った。その後、5分間の全体共有の時間を設けた。 【全体共有の場が出された意見】 ・講師の説明を聞いて、まちづくりに積極的に関わっていくことは大切だ

<p>⑧ 議論～関市がよくなるアイデア～</p>	<p>ということが分かったが、学生や子育て世代などの若い世代は、中々時間を取ることできないし、モチベーションも上がってこない方が多い。</p> <p>・人との繋がりが希薄化しており、これをどうにかしたいと現在も取り組んでいる。</p> <p>※今回の参加者は、PTA や消防団委員、まちづくり団体等で活動されている方が多かったため、その活動事例を紹介しながら共有を行った。</p> <p>全体共有の後は「関市が良くなるアイデア」について、3人2グループでブレイクアウトルームに分かれ、意見を出し合った。その際に、発表者と議事録係を決めてもらい行った。</p> <p>この時間の意図は、まちづくりカレッジのゴール「関市が良くなる具体的なアイデア」を第3回で発表していただくための準備段階として設置した。ブレイクアウトルームで話し合った後、10分間全体共有の時間を取った。そこで出てきたアイデアは以下の通りである。</p> <p>【関市が良くなるアイデアを話し合った結果】</p> <p>ブレイクアウトルーム①(Oさん、Kさん、Sさん)</p> <p>・どんなまちがいいまちか？まちづくりへの市民参加が活発なまち。まちづくりへ巻き込んでいくために、まちづくりが楽しいということを伝える。</p> <p>・市民と行政がまちづくりについてのぶっちゃけた話ができる語らいの場があると良い。</p> <p>・消防委員会の傍聴を公募しているが、数年間で1人しか来たことがない。ただ会を開いているだけでは広がりが無い。もっとPRした方がよい。</p> <p>・まちづくりをやっている人たちを繋げていく仕組みが必要。</p> <p>ブレイクアウトルーム②(Hさん、Mさん、Fさん)</p> <p>・行政と市民のやりとりを目安箱、SNS などでもっと活発に発信する。行政と市民のやり取りを見えるようにしていく。</p> <p>・VS プロジェクトやせきららゼミが、まちづくりの仲間を得るきっかけになっている。まちづくりに関わる仕組みづくりが大事。</p>
--------------------------	--

	<p>・情報を共有するまちづくりをきっちりできるか？が行政が信頼を勝ち取る方法。しかし、関市の HP のリニューアルはあったが外見は変わっても、中身が全然変わっていない。HP のシステム、機能をもっと多くの写真を入れられるようにしたり、添付画像を開いた時に画素数を高くしたりして、見やすくしてほしい。</p>
--	--

3.総括

自治基本条例についての理解が深まった会であった。また、ブレイクアウトルームを活用したため、話す量が増え、多くの意見や考え方を共有することができた。

一方で、参加人数が 6 人と少数であったため「全員と話したい」という意見も出された。次回は参加者全員の意見が聞けるようなワークショップを設計する予定である。

実施報告書 3

1.開催概要

名称	まちづくりカレッジ(第3回)
日時	2024年2月8日(木) 18:00~19:30
開催場所	オンライン(Zoom)
参加者	6名

2.開催内容

工夫したこと	<p>第3回(最終回)は、前回実施した際に参加者から出された「ブレイクアウトルームで少人数に分けるのではなく、参加者全員と意見交換したい」という意見を反映させ、ブレイクアウトルームは使用せず参加者全員で話し合う時間を設けた。また、その際に全員が話せるように1人あたりの持ち時間を決めて、発言量に極端な差が生まれないように配慮した。</p>
⑨ 導入	<p>初めに「本日の進め方」について説明し、前回出た意見を反映しながら進めていく旨の整合を取った。その後、市民協働課から開会挨拶および今回のゴールの共有を行った。</p> <p>今回の構成は、下記の通りである。</p> <p>1. 関市が良くなるアイデアと聞いてパッと思い浮かぶこと 60分 ※パッと浮かんだアイデアを全体共有する(1人8分)。</p> <p>2. 関市が良くなる具体的なアイデアの発表 25分 ※具体的なアイデアを発表する(1人3分)。</p> <p>3. 開会・閉会挨拶および事務連絡 5分</p>
⑩ 全体共有 ～関市が良くなる アイデアと聞いて パッと思い浮かぶ こと～	<p>その後「関市が良くなるアイデアと聞いてパッと思い浮かぶこと」について全体共有の時間を取った。このお題にした理由は、アイデアを発散させて、より多くの意見を参加者同士で混ぜて、より良い意見にしていくためである。この時間は「気軽に話し合う」ことを意図したかったため、アイスブレイクも兼ねて市民協働課のアイデアを即興で話してもらった。その後、準備が整った参加者から1人8分の持ち時間で、発表や質問、意見出し等を行なった。そこで、出てきた意見は下記の通りである。</p> <p>(一部抜粋、詳細は別紙議事録にて)</p> <ul style="list-style-type: none">・誰もが自由に参加できるようなフリートーク空間・場所を創出する。・関市について話し、知ってもらおうという機会が必要ではないか。例えば、ふれ

<p>⑪ 発表 ～関市が良くなる具体的なアイデア～</p>	<p>あいセンターや学習センターがあるので、小中学生に向けても義務教育の段階から関市のことを伝えていく機会を持つと良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜市のように 20 歳のお祝いを各ふれあいセンターで行う。 ・市民活動をやっている人たちと繋がりたいような紹介サイトを作る。 ・当て職ではなく、まちづくりリーダーに参加してもらって仕組みづくり。 ・アーティストを呼んで来て、コンサートを行うなど学生が喜ぶイベントを実施する。 ・地域委員会の効果測定をしっかりと行う。 ・次のアクションにつながるイベントを行う。 <p>全体共有の後は、5分ほど「考えをまとめる時間」を取り、発表準備を行った。</p> <p>「関市が良くなる具体的なアイデア」の発表に関しては、1人3分の時間を設けて発表してもらった。</p> <p>その時の内容を下記に要約した。</p> <p>(一部抜粋、詳細は別紙議事録にて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生に対する地元教育の強化 ・まちづくり市民会議での繋がりを広げること ・関市が1つになれるようなスローガンを作る ・まちづくりのリーダーを育てていく ・全ての人を取りこぼさないバリアフリーな街に ・関市に関することがなんでも情報でも載せられるポータルサイトを作る <p>その後、まちづくりカレッジに参加した感想を参加者(20代大学生)から聞いた。</p> <p>「はじめて参加したが、はじめは有識者の方ばかりだと思った。20代が自分しかいなかったのが不安が大きかったがみなさん熱い思いをもった方々ばかりであった。自分にはない多くの観点を取り入れることができた。」と語ってくれた。</p> <p>また、参加者から開始前後 10 分ぐらいフリートークできる時間を作っても良いのではないかという意見を頂いたので、今後は参加者同士で自発的に交流し合える時間を設定すると良い。</p>
-----------------------------------	---

3.総括

最終回ということで、最終目標の「関市へのアイデア発表」を行なった。その際に、もっと色々な人の話が聞きたいという前回の出た意見も活かしながら、参加者同士でアイデアを混ぜてブラッシュアップしていくことを心がけた。

今回のような「まちのことを学べる場」の開催は、まちづくりに参加する市民を増やすためにも必要不可欠であると感じた。まちづくり市民会議というオフィシャルの場も良いが、もっと自由にまちのプレイヤーと出会える場や意見を交換できる場があっても良いと思う。そういった場を、市民活動センターが創出できたらと感じた。